

第66回
全国高等学校PTA連合会大会
千葉大会

閉会式



「再発見！愛」
〜今こそ信じよう愛の絆〜

閉会式

1 開式の辞

司会 引き続き、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会、閉会式に移らせていただきます。はじめに、千葉大会実行委員会副委員長の湯井隆子より、開式の言葉を申し上げます。

湯井隆子 これより、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会閉会式を行いたいと思います。

2 大会会長挨拶

司会 続きまして、一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長 佐野元彦より、閉会のごあいさつを申し上げます。

佐野元彦 昨日から2日間にわたり、皆様方には本大会のプログラムに熱心にご参画をいただき、誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。PTA活動の原点は、言うまでもなく、子どもたちと寄り添い、地域と共にある学校PTA、皆様方の活動にあります。

一方、私たち全国連合会や都道府縣市連合会の役割は何かと言いますと、一つは、このような研修の場を通じて、各学校で行われている先進的なPTA活動あるいは成功例などの様々な情報を提供することにあります。皆様方には、この2日間、多くの気づきや学びを得ていただけたものと自負しております。

また、もう一つの役割は、各学校のPTAに共通する課題、更には、社会発展の礎となる日本の教育全体、これを望ましい姿にするためにはどうすればいいかということ、各連合会は都道府縣市のレベルで、そして、全国連合会は全国のレベルで、教育関係機関等々との連携の中で、それを提言し、実現をしようとしています。その点においても、日本の社会の在り方、あるいは日本の教育の在り方の一端に触れていただけた2日間であつたら、大変ありがたいなと思うところです。

本大会を貫くキーワードは、「自立」という言葉でした。私自身、この2日間を通じて感じたことを二つ申し上げたいと思います。

1点目は、地域と学校とのつながり。これが大切になってきたと強く感じました。全国のPTAの中には、PTに加えて、コミュニティーの「C」をあえて加えて、PTCAと称する学校が出てまいりました。昨日の全国の研究発表の場でも盛んに強調されておりましたが、自立を促すためには、様々な経験や体験を子どもたちがする必要があり、それは、学校の中だけにとどまらずに、フィールドを地域に広げていくことが大事であるという提言がございました。まさしくその通りだと思います。

そして、子どもたちも、様々な活動を通じて、小さな達成感やお役立ち感を感じ、それが自己有用感、自己肯定感、自尊心の向上につながっていくことが期待できるのではないかと強く感じたところでもあります。

一方、昨日の開会式の松野文部科学大臣のお話にもありましたとおり、学校が地域活性化の核になるということも期待をされております。私は、秋田県で生活をしています。日本で一番人口減少率の激しい地域であります。地方では、地域消滅の危機ということが言われております。それに対して、学校は、学校で学んでいる生徒たちは、卒業した生徒たちは、どのような貢献ができるのか。また、都市部においても、確かに人口は多いかもしれないけれども、果たしてコミュニティーの「com」に込められた協働をしていくという地域なんだろうか。人は多いけれども、一人一人孤立をした、コミュニティーとは呼べない、人だけがいる地域なのではないか。そこに、学校がどういうつながりを持てるだろうか。

昨日、なるほどというお話を、全国校長協会の会長で、都立西高の校長先生である宮本先生から伺いました。防災の観点から、もし昼間、大きな災害が起きたとき、その地域には、都市部であればあるほど、勤務先が違う場所なので、人がいない。そこに、800人、1,000人の若者がいるという

のは、いかに地域にとって心強いのか。都市部の学校でも地域に貢献できるのだというお話がありました。地域が学校を支え、学校が地域の役に立つ、地域協働ということを強く感じたところでございます。

2点目は、キャリア教育の重要性というものを、改めてかみしめた2日間でありました。職業選択という狭い意味でのキャリアではなく、いかに生きるか、自らの生き方を見つめるという、そういうキャリア観の醸成が、子どもたちが自立していくためには、大変重要であると感じさせられました。

大変恐縮ですが、私の母校であり、現在の所属PTA校である秋田県立秋田高等学校のお話をさせてください。秋田高校は、明治6年設立、今年で143年を迎える学校です。校歌は、大正11年、今から90数年前に作られました。作詞は、土井晩翠。「荒城の月」の作詞で有名ですが、当時、第二高等学校、今の東北大学の前身の旧制二校の教授をしていた土井晩翠は、母校の東北大学の校歌のみならず、東北地方の多くの高校の校歌を作詞しています。

土井晩翠は、秋田高校の校歌の中で、「わが生わが世の天職いかに」という問いを発し、そして、「敬天愛人理想を高く おのれを修めて世のためつくす」という答えを記しています。秋田高校の生徒は校歌斉唱のたびに、この一節に触れるのです。

また、昭和38年から4年間、秋田高校の校長を務めた、鈴木健次郎先生という名校長がいらっしゃいます。鈴木健次郎先生は、旧制秋田中学をご卒業後、戦前の青年団活動に身を投じ、そして戦後は文部省に入って、公民館制度の創設、そして、社会教育と、社会教育実践に力を注いでこられました。請われて、昭和38年に母校の秋田高校の校長に就任しました。その鈴木健次郎先生が、常日頃、様々な場面で生徒たちに語り掛けていたのは、「なんじ、何のためにそこにありや」。いつ、どんなとき、誰に、どこで聞かれても、即座に答えられるような自覚ある生活を送ってほし

いと、折に触れて、生徒たちに語り掛けました。

鈴木先生は4年間の校長生活でありましたが、それは代々語り継がれて、「なんじ、何のためにそこにありや」、それを考える高校生活を送ることが、秋田高校では行われており、それに対する答えが、先ほどの校歌の中にある「敬天愛人理想を高く おのれを修めて世のためつくす」であろうと思います。

私たちも、子どもたちと一緒に、何のために生きるのか、どのような役割を果たして、周りの方たち、そして、世の中の役に立とうとするのか。そのようなことを、お互いに自覚をして生活する親子関係、家庭でありたいと考えてところです。

インドの独立運動の指導者であったマハトマ・ガンジーの言葉に、こんな言葉があります。「善きことは、カタツムリのスピードで進む」。私たちのPTA活動は、一朝一夕に飛躍することはできないかもしれません。しかしながら、カタツムリのスピードでも、一步一步前に進んでまいりましょう。

終わりに、ここにお集まりの全ての皆さま方に、今後、なお一層のPTA活動へのご尽力をお願い申し上げますとともに、素晴らしい大会を主管いただいた、千葉県連の皆様、千葉大会実行委員会の皆さま方に、深甚なる感謝を申し上げ、閉会に当たっての挨拶といたします。ありがとうございました。

3 大会宣言採択

司会 続きまして、本大会の実行委員会副委員長金子浩章が、本大会の宣言文を読み上げます。

金子浩章 皆さま、大会要項194ページをご覧ください。

大会宣言【後述・P75掲載】

司会 ただ今の大会宣言文へのご承認の拍手をお願い申し上げます。盛大な拍手、ありがとうございます。

いました。大会宣言は、採択されました。それでは、皆さま、(案)の文字をお消してください。

4 全国高P連旗返還

司会 さて、いよいよ連合会旗の返還ならびに、次期開催県への授与となります。佐野会長ならびに大木幸夫千葉大会実行委員会委員長、そして、次期開催県であります、静岡大会実行委員長 杉浦政紀様、ステージ中央にお進みくださいませ。はじめに、全国高等学校PTA連合会旗が、千葉大会実行委員会委員長 大木幸夫から、一般社団法人全国高等学校PTA連合会 佐野会長に返還されます。

〈全国高等学校PTA連合会旗返還〉

司会 連合会旗が、大木委員長より佐野会長へ返還されました。

5 全国高P連旗授与

司会 それでは、続きまして、佐野会長より、次期開催県であります、静岡大会実行委員長 杉浦政紀様に会旗が授与されます。

〈全国高等学校PTA連合会旗授与〉

司会 静岡大会のご盛会、ご成功を、心より申し上げます。どうぞお席へお戻りください。

6 次期開催地挨拶

司会 それでは、ここで、次期開催県であります静岡県のPR映像をご覧ください。どうぞスクリーンにご注目ください。

〈映像放送〉

杉浦政紀 皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介を

いただきました、次年度開催県静岡県で実行委員会実行委員長を務めさせていただきます杉浦でございます。よろしくお願いいたします。

私、まず、静岡をPRする前に、どうしてもしたいことがございます。皆さまのご協力の下でさせていただきたいと思いますので、ぜひ、お願いいたします。それは、千葉県連の皆さん、実行委員会の皆さんへの感謝でございます。会場の中にも、ピンクのポロシャツの皆さまがいらっしゃいます。また、会場の中に入らず、ロビーにいらっしゃる方、ステージ脇にもいらっしゃいます、控室にもいらっしゃいます。そして、サブ会場の皆さんのもとにもいらっしゃるかと思います。そういった方々に、心を込めて、感謝の拍手を送りたいと思いますので、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。サブ会場の皆さまも、ご一緒をお願いいたします。すてきな大会をありがとうございました。

ありがとうございます。さて、ここからは、静岡でございます。来年、2017年、平成29年、8月の24日木曜日、25日金曜日、2日間にわたり、第67回全国高等学校PTA連合会大会静岡大会を静岡の地で開催させていただきます。メイン会場としましては、静岡と浜松の間にございます、袋井市という市がございしますが、そちらにございます小笠山総合運動公園エコパの中にございます、エコパアリーナを会場と致しまして開催をさせていただきます。

こちらは、2002年、ワールドカップサッカーのときのサッカースタジアムでございます。その併設アリーナを使わせていただきます。そして、分科会は、その地だけでなく、静岡市から浜松市まで、7会場、広いエリアを使つての開催になりますけれども、移動等、皆さまのご協力の下、素晴らしい大会を築き上げていきたいと、実行委員会一同考えております。よろしくお願いいたします。

そして、テーマでございますが、先ほどビデオにも出てまいりました、「『有徳(ゆうとく)の人』づくり」この言葉を使わせていただきます。そし

て、「～未来のために行動する『一人』を育てよう～」、そういったサブタイトルも付けさせていただきました。皆さまには、「有徳の人」という言葉、あまり聞き慣れない言葉かとは思いますが、この言葉は、静岡県教育基本方針にうたわれている言葉でございまして、意味としては、個人として自立した人、人との関わりあいを大切にしている人、よりよい社会づくりに参画し行動する人、そういった人を育てようという意味でございまして。

われわれ、この言葉に共感を感じ、この言葉をテーマに、大いに全国の皆さまと、そういった頼もしい子どもたちを育てる、そういったことを研修する場を、静岡の地でご用意させていただきたいと思っております。

来年のまた暑い夏だと思っております。そんな中でございましてけれども、より多くの方に、静岡にお集まりいただき、皆さんで研修をし、そして、研修をし、また研修をし、そして、交流をしていただき、最後に静岡を満喫していただく大会につくり上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

静岡のメンバー、オール静岡で皆さまをお迎えをしたいと思っております。全国の皆さまのご来場を心よりお待ちしております。どうぞ、よろしくお願いをいたします。

司会 次期開催県であります静岡県の皆さまでした。ありがとうございました。来年がとてもしなりました。

7 実行委員長閉会の挨拶

司会 続きまして、千葉大会実行委員会委員長、大木幸夫より、閉会のあいさつを申し上げます。

大木幸夫 2日間にわたりまして、皆さん、研修、お疲れさまでございました。そして、最後の閉会式までお残りいただきまして、誠にありがとうございました。いささか緊張しております。本来であれば、もうこの時間に舞浜地区に向かいたい方も

多々いらっしゃると思いますが、感謝の気持ちを述べさせていただきたいと思っております。

準備を始めて2年半たちまして、愛情を込めてこの大会を一生懸命つくってまいりました。準備してまいりました。大会のテーマでもあります「愛」という言葉をキーワードに、スタッフ一同、一生懸命つくってまいりました。そして、多くの絆もできました。愛と絆の結集の後、何が残るかということが、今、この場に立ってよくわかりました。それは、感謝という気持ちが残っております。感謝という気持ちが残ると、すごく幸せな気分です。恐らく、ピンクのポロシャツを着ている千葉県のスタッフのみんなも、同じ気持ちだと思っております。

そして、私は、代表者ということで多くの方に直接声を掛けていただき、励ましていただき、この大会を、責任者として、その責任を果たすことができました。そして、多くのねぎらいの言葉も、直接掛けていただきました。

しかしながら、スタッフには、なかなかそういう声を、直接気持ちを届けていただける場がなかったもので、杉浦会長の一言で、皆さんから、温かい拍手を頂いたことは、本当に本当にうれしい限りです。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

皆さんにとっては、2日間、どんな大会だったのでしょうか。たくさんの思い出、それから、学び、気づき、お持ち帰りいただくことができる大会になったのでしょうか。

ありがとうございます。千葉の地で、こうして全国大会が開けたことで、千葉県も開催経験県として仲間入りできたこと、本当にうれしく思います。第66回を迎えた本大会ですが、第1回大会から65回大会まで、まさしく絆の下、つないでいただいた開催県の皆さま、本当に感謝申し上げます。

そして、これは私からのお願いなんです。来年度、静岡大会に、千葉よりも、もっといい大会になるんじゃないか、もっといい大会にしてくれというお気持ちの方、サブ会場でこのモニターを

見ていただける方、ご協力ください。静岡大会が、もっともっといい大会になればいいなと期待をしていらっしゃる方々、大きな拍手を静岡県に願います。

私も、本当に期待をしています。杉浦実行委員長のポロシャツを見ると、真新しいこの筋が、折り目が入っているんですね。私のポロシャツも、1年前は、本当に真新しい、もっときれいなピンクでした。ところが、今は、終わりを迎えているので、チーバくんと同じにおいがします。いよいよ終わってしまうんだと、ちょっと寂しい気持ちもあります。

しかしながら、ここにお残りの皆さんの笑顔、これには、本当に、寂しさと感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

最後になりますが、皆様のご健康と、これからの子どもたちの明るい未来を期待しまして、私の感謝の言葉とさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

8 閉式の辞

司会 それでは、最後に、千葉大会実行委員会副委員長の水野恭成より、閉式の辞を申し述べます。

水野恭成 皆さん、2日間、この千葉大会のためにお忙しい時間を割いていただき、ありがとうございます。佐野会長、次期開催地静岡県の杉浦実行委員長、大木実行委員長の素晴らしいお言葉の後で甚だ恐縮ではございますが、これをもちまして、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会を終了いたします。ありがとうございました。

司会 以上をもちまして、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会、一切を終了いたしました。2日間にわたる千葉大会のご参加、誠にありがとうございました。お忘れ物のないようお気を付けてお帰りくださいませ。

なお、千葉県の観光案内とお土産の販売に関しては、メイン会場、イベントホールのロビー

のみで実施しております。ご利用をご希望の方は、そちらをご利用ください。

それでは、また来年、静岡大会でお会いいたしましょう。

大会宣言

「『再発見！愛』～今こそ信じよう愛の絆～」をテーマに、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会が、房総の地で開催され、大きな成果を収めました。

我が国では、長い間、子どもは「家庭や地域の宝」であり、みんなで子どもを育てて来ました。私たちは、ここに子どもに対する深い愛情を感じたものでした。

ところが、近年、社会の在り方や価値観が大きく変化し、家族や地域のつながりは弱いものとなり、子どもをみんなで育てようとする気持ちが薄らいできたように思います。

私たちは、かつては当たり前だった「家庭と地域の教育力」に注目し、「学校の教育力」と手を携え、子どもをみんなで育てようとする社会の再生を提唱します。

それは、子ども、家庭、そして地域も生き生きとする社会です。

家庭、地域、学校の協力を「絆」、子どもを育てることを「愛」と考えると、「絆」を再構築することが、「愛」の再発見につながります。

本大会では、子どもたちをみんなで育てる社会を再び作り上げるために、PTAの果たす役割や活動の在り方について熱心に討議されました。

ここに大会の成果を踏まえ、PTA活動がより一層、活性化し発展することを願い、以下のとおり宣言します。

- 一 これからのグローバルな社会に対し、子どもたちが自分で考え、行動し、多様な社会に対応が出来る力を高められるように、私たち大人が、環境を整え、子どもたちの資質や能力を育むように努める。
- 一 自分の夢は何なのか、将来自分のやりたい事は何なのか、子どもたちの夢や希望を叶えるために、私たち大人が連携し、手本を見せ、子どもたちの夢の実現の支援に努める。
- 一 大切なものは何なのか、必要なことは何なのか、子どもたちの個性や感性を伸ばすために私たち大人が家庭、学校、地域で連携し、子どもたちの思いやりのある豊かな心を育てるように努める。
- 一 情報が溢れ、利便性が飛躍的に向上している社会の中で、子どもたちが正しい知識や、コミュニケーション力を培う必要がある。そのために、私たち大人が、人と人の付き合いを通して子どもたちに、次世代に繋がる真の信頼関係を築くためのコミュニケーション力を伝えるように努める。

第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会において宣言する。

平成28年8月26日

一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動

現在、子どもたちの「大切な命」を取り巻く環境はたいへん厳しいものがあり、毎日のように報道される様々な交通事故によって、多くの「大切な命」が失われています。

私たちは「バイクの3ない運動」をとおして、子どもたちの「大切な命」を守る運動を続けてきましたが、現状はバイクだけでなく、自転車や歩行者等の交通マナーを向上させることが急務です。

そのため本会では、子どもたちの「大切な命」を守る観点より、地域社会と共に具体的な交通安全指導を推進する必要があると考え、「自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動」を実施することになりました。各機関・団体等と連携・協力して、交通安全教育の充実のために効果的な活動を推進していきます。

目 的

「被害者にならない、加害者にさせない」

マナーアップ運動を展開して、子どもたちの命を守る。

運動内容

- 1 地域の関係機関や団体等と連携・協力し、具体的かつ積極的にマナーアップ運動を展開する。
- 2 交通ルールを守り、自他の命や安全を大切にすることを育てる教育を充実する。
- 3 「バイクの3ない運動」(免許は取らない・乗らない・買わない)は埼玉大会での宣言文の精神を踏襲する。
- 4 日頃から保護者と子どもたちの会話や心の交流を密にし、交通モラルの向上に努める。

平成28年8月26日

一般社団法人 全国高等学校P T A連合会

編集後記

師走に入り、街はにわかにはざわめいてきました。クリスマスのイルミネーションが風に揺れています。あの夏の日から4ヶ月、資料広報部会の大会会報の編集作業も終盤に入りました。皆様がこの会報をお手にする頃は、春のたよりが届いているでしょうか。

思えば、2年前に千葉大会に向けての準備委員会が発足したころは、経験のない仕事でどうなるんだろうと不安しかありませんでした。岩手大会の視察を含め、福井や岩手の資料を参考にさせていただき、長い準備期間を経て、2016年千葉大会を迎えました。途中、メンバーの多少の入れ替えもありましたが、このことがなければお話しすることもなかった皆さんとずっと一つの仕事をしてきたことは、何か不思議な感じさえします。実施要項の制作では、分科会の原稿や千葉県の紹介ページの写真を集めたり校正したり、とにかく多岐にわたる仕事でたいへんでした。特に、前日の準備で完成した1万1千冊の要項とその他の資料（5トン）を袋詰めしたあの作業は忘れることはできません。



ある友人は、「この全国大会をわたしのPTA活動の集大成にするわ」と言っていました。子育てをしながら、小学校、中学校、高等学校といつもPTA活動に協力してきた彼女は、最後に全国大会の運営スタッフの大役をまかされたのです。スタッフ、役員、発表者、それぞれが、いろいろな思いをもちながら参加していたんだろうと思います。

全国から千葉にお集まりいただいた皆様、この会報をお開きいただきありがとうございます。あの暑かった日がよみがえりましたでしょうか。分科会で聞いた活動のヒントはお役にたてていただけましたか。千葉大会にご不満や至らぬ点があったことをどうぞご容赦ください。

実施要項も含め、原稿を提供していただいた皆様、ご多用の中、誠にありがとうございました。

PTA活動は、人が替わりながら、引き継がれていきます。これからも高P連のますますの発展をお祈りします。

皆様、千葉はよいとこ、また是非遊びにいらしてください。

平成28年12月

第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会

実行委員会副委員長兼資料広報部会長 菅澤 朱美

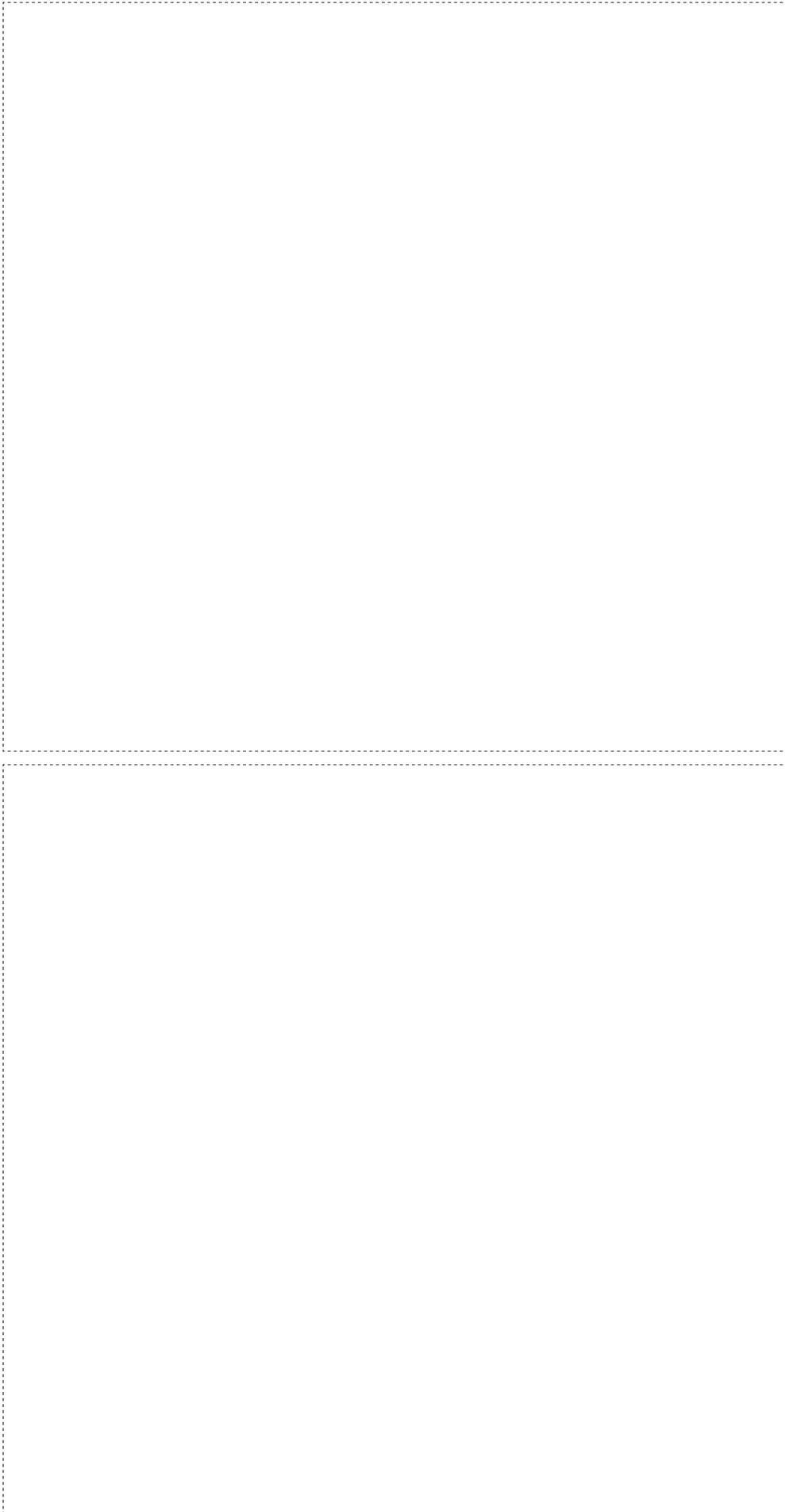
〈訂正とお詫び〉

全国大会で配布しました「大会要項」において、下記の通り誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

94頁 平成28年全国高等学校PTA連合会会長表彰（団体）

新潟県立糸魚川高等学校PTA→新潟県立糸魚川高等学校保護者会

分科会収録 DVD



- 当該 DVD は、パソコン・ご家庭の DVD プレイヤーでご覧いただけます。
- 当該 DVD は、P T Aでの研修会・学習会での活用を目的として製作されたものです。
関連部外やインターネット等、メディアに流出しないよう、ご注意をお願いいたします。